

相島海底遺跡は相島の東部近海の水深約18mの海底に所在する水中遺跡です。新宮町教育委員会では、平成28年度から令和元年度までの4年間をかけて相島海底遺跡の分布調査を実施し、92枚の平安期の瓦を確認するに至りました。さらに、これらの瓦の中に「けご警固」銘が刻印された瓦があることも確認できました。「ななめがうらかわがまあと警固」瓦は、生産地とされる福岡市斜ヶ浦瓦窯跡、消費地とされる京都平安京にしか出土例が無く、相島海底遺跡が3例目の出土地となります。これらは平安期の海上交通の様相を考える上で重要な発見です。そこで専門家を招いたシンポジウムを通して、かつての新宮沖が果たした役割を考えます。

相島

海

遺底 跡

シン ポ ジ ウ ム

海と陸の交差点

[1] 基調講演

海上運搬 「平安期の海運」

文化庁主任調査官 とおみ としひで 近江 俊秀

[2] 報告

斜ヶ浦瓦窯跡調査報告

福岡大学非常勤講師 常松 幹雄

相島海底遺跡調査報告

新宮町教育委員会 樫村 拓男

京都平安京調査報告

京都市文化市民局 鈴木 久史

[3] パネルディスカッション

ささき らんてい 佐々木 蘭貞 | 帝京大学准教授

すずき ひさふみ 鈴木 久史 | 京都市文化市民局

つねまつ みきお 常松 幹雄 | 福岡大学非常勤講師

かしむら たくお 樫村 拓男 | 新宮町教育委員会

進行

いけだ よしふみ 池田 榮史 | 國學院大学教授

[4] 総括

にしに ただし 西谷 正 | 海の道むなかた館 前館長

10/4 2025



会場 そびあしんぐう 大ホール
住所 糟屋郡新宮町新宮東4-1-1
時間 12:30～17:00 (開場 12:00)
主催 新宮町 新宮町教育委員会
後援 福岡県教育委員会

海底で発見した瓦。
「警固」銘の刻印がある。

